

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 71 号
2017(平成29)年2月18日(土)

これ し これ し な
之を知るを之を知ると為し、

し し な
知らざるを知らずと為す。

こ し
是れ知るなり。 為政第二・第十七章

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

冒頭の言葉は、2014(平成24)年11月に講義した論語の章句であり、孔子が孔門十哲で最古参弟子、子路に諭した言葉である。「知っていることは知っているとし、知らないことは知らないと明らかにする。これが本当に知るといふことだ。」という解釈になろう。

つまり、「知らない」ということを「知る」ことが大事なのだと説いていることは理解できる。

私はこの言葉が何故か好きである。私に安心感を与えてくれるばかりでなく、「これは私の知らない世界だ」と思えば知らない世界を「知ったつもりになろう」なんてことを考えなくて済むからだ。

孔子のこの言葉は、時には私をわかったつもりにさせてくれる。また、別の時には、私を疑いの世界に突き落とす。それ故、私はこの言葉を人生の指針にすることができるのだ。私の世界に現れて、私の興味をそそる全てのものに対して、「私はこれを知っているのか、知らないのか」改めて自問自答してみたくなるのである。そして、その時私はそのものをもう一度沈思黙考(黙ってじっくりと深く物事を考え込む)せずにはいられなくなるのである。

今の時代とはいえば、情報通信技術が格段に発達し、昔と比べものにならないほど情報が簡単に入手できるようになった。真実と偽りがはっきりしない情報が幅広く出回る時代になったといつてよからう。しかし、ある事象について理解するだけが「知る」ことではなく、何故そうなったのかを含めて「知る」のでなければ意味がないのだ。真偽を「知る」ことに細心の注意を払わねばなるまい。

それにしても、孔子は「知る」ということをどんなふう考えていたのか。
2,500年前に遡って、孔子の本音を直に聞いてみたいものだ。

お知らせとお願い

「塾生紹介」を暫くお休みしていましたが再開したいと思ひます。子供・大人の塾生でまだ紹介されていない方は、受付で用紙をもらって氏名のみを書いて提出して下さい。

塾生の皆さん並びに保護者の皆さんに、感想文(600-800字程度)を書いてほしいと思ひます。内容は問いません。是非、積極的にお願いします。(以前書かれた方も大歓迎です。)

「ちょっといい話」コーナーの欄に、どのようなことでも構いませんので話題提供をしてくれる方がいましたら是非お願いします。直接世話人へ話すか、投書箱を利用して下さい。

投書箱を設置しますので是非ご利用下さい。塾長及び世話人会への意見・要望等々どのようなことでも結構です。